

会議の概要

令和6年度 第2回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和6年6月25日（火）16:20～17:50

場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小学校教頭 佐藤 史浩）

1 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 吉田 都）

皆さん、こんにちは。梅雨に入り、蒸し暑く体調を崩しやすい時期でございますが、玉井小学校におかれましては飲み物まで準備していただきありがとうございます。それでは、令和6年度玉井小学校・玉井幼稚園 学校運営協議会、第2回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会（以下CS委員会と略記）を始めます。よろしくお願いいたします。

2 教育長あいさつ （大玉村教育委員会 教育長 渡辺 敏弘）

皆さん、改めましてこんにちは。まずは玉井小学校と玉井幼稚園の先生方、今日の準備、そして子どもたちの生き生きとした姿、子どもたちと一体となった授業を見せていただき本当にありがとうございました。

授業参観での子どもたちの姿、分科会で先生方が授業と向き合う姿、それらをご覧いただいた上でこの後の学校運営協議会ということになります。いつも以上にご覧いただいた子どもたちや先生方を応援するというスタンスでこの後の熟議に臨んでいただければありがたいと思っております。また、今日は、教育委員の皆様にもご参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

ちょっと話は変わりますが、先日ある市の教育長さんとお話をする機会がありました。たまたまCSの話題になり、その中で「学校運営協議会というのだから運営側なので、学校の各種行事の時に来賓として招待するというのはいらないのではないだろうか。運営スタッフ側なので…」という話が出ました。私も実はそれよりも前にCS委員の方々数人から、「来賓ではなく、いろいろ手伝いをさせて欲しいと思っている」という声を聞いておりました。正にその通りだなと思って、その時に私もそのことをお話しました。学校運営協議会（CS委員会）の立ち位置をもう一度見直したり、考え直したりするのも意味のあることではないかということで、その時はお話が終わりました。もちろんそんなことがあったからすぐに何かを変えようと言っているわけではないのですが、今後そういったことについて話し合う中で、新たな共通理解が図られていったらよい方向に向かうのかなと思いました。

話が逸れてしまいましたが、本日も実りの多い会になりますようよろしくお願いいたします。

－ 1 －

3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ （おおたま学園CS委員会会長 矢吹 吉信）



皆さん、改めましてこんにちは。本日は玉井小学校の先生方、本当にお疲れさまでした。特に授業者の先生方、準備、段取り等お疲れさまでした。

私は、5月に田植をいっしょに行った3年1組の斎藤先生の授業を参観させていただきました。丁寧な授業で、準備物もしっかりとされていて、素晴らしい理科の授業だったと感じました。私は、小学校の時理科の実験が大好きでした。算数と国語は苦手だったんですけれども、実験については得意分野でありまして、本当に楽しく拝見させていただきました。

分科会の中でも、大山小の先生から「これから実験をするので、ぜひ今日の授業を生かして参考にしたい」というお話もありました。大玉の教育はやはりオープンスクールなくしては語れないなと今日改めて感じました。「こういったオープンスクールが他校の先生方にも生かされる」、これが大玉の教育なんだなと感じたところでございます。

本日は、玉井小学校・玉井幼稚園に特化した内容ということで、テーマを見ますと「子どもたちの体力向上に向けて何ができるか」についてです。とても興味深い内容と考えます。皆さんと一緒に活発にいろんな意見を出し合っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



4 玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 検討方法・課題の確認

(1) 協議の進め方について (玉井小学校教頭 佐藤 史浩)

① テーマについて

学校・園、家庭、地域が協力して玉井の子どもたちを育むという視点を基に熟議する。

<テーマ>

子どもたちの体力向上に向けて何ができるか

② テーマについての協議

ア テーマについて考えたことや思ったことを付箋に書き込む。

黄付箋 … 学校からアプローチできること 赤付箋 … 家庭からアプローチできること

青付箋 … 地域からアプローチできること

イ グループ全体で協議

ウ 「幼稚園・小学校ができること」、「家庭ができること」、「地域ができること」をまとめる。

③ グループで協議したことの共有化

(2) 玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動並びに本日のテーマについて

① 校長／園長より (玉井幼稚園長・玉井小学校長 五十嵐 洋之)

本日はお忙しい中玉井小・幼学校運営協議会おいでいただきありがとうございます。日頃より教育活動に多方面にわたりご支援、ご指導を賜り誠にありがとうございます。私からは、玉井幼・玉井小の教育活動と本日の熟議のテーマについて説明いたします。

— 2 —

玉井幼・玉井小の教育目標は同じで、「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」

であり、知徳体の3つの観点からそれぞれの目標を「自ら学ぶ子ども」、「心豊かな子ども」、「たくましい子ども」とし、幼・小それぞれに重点目標と実践事項を設定して教育活動を進めております。その教育活動の土台となるのが、子ども一人一人のよさを認め賞賛し、価値づける指導であります。そういった指導を通して、子どもたちの自己肯定感を高め、前向きな意欲を高めながら教育活動を進めているところです。

また、今年度も幼稚園においてはジャガイモやさつまいも植え、本の読み聞かせ、園外保育等、小学校では新入生の下校指導、授業参観時の交通整理や預かり指導と見守り、朝の読み聞かせ、水泳指導等、CS委員や学校支援ボランティアの皆さんには子どもたちが安全にそして楽しく有意義な活動ができるようご支援いただいております。誠にありがとうございます。

私は他地区から着任いたしましたが大玉村は地域全体で子どもを育てる活動が確実に進められ、そして子どもたちに地域に対する愛着・愛情が育まれていることを実感しております。今後も村の関係機関や地域の皆様と連携を図り充実した教育活動を進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の熟議のテーマについてですが、現在子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、また、コロナ禍にも見舞われ、子どもたちの体力の低下や肥満傾向の増加が多く学校の課題となっております。後ほど各担当からデータに基づく現状説明がありますが、本校でも同様の課題がございます。また、村健康福祉課からデータをいただきましたが、大玉村の40歳から74歳までの成人におけるメタボ該当率は県内33位で、県平均を上回っているようです。また、その割合も年々増加し続けています。運動に関するデータでも、30分以上の運動を週2回、1年以上実施していないと回答した割合が県平均は62%である対して、大玉村は69.7%という高い数値を示しています。大玉村の健康問題の背景には運動不足も原因の一つと考えられます。



このように、体力の低下、運動不足は本村の子どもから大人までの課題であると言えます。そこで今回の熟議では子どもの生活・活動に焦点を当て、子どもたちの体力向上のために学校・家庭・地域ができることについて各々の立場で話し合ってください、学校で具体的な方策を進める上でのヒントにしていきたいと思っております。皆様、どうぞご意見等よろしくお願いいたします。本日はよろしくお願いいたします。

② 新体力テストの結果から（体育主任より）（玉井小学校 矢島 岳人）

※ Tスコア＝全国平均を50としたときの学校平均の偏差値

- 男子、女子共に昨年度よりも少し良くなってきたが、合計点では男子が48、女子が47.1となっており、全国平均よりかなり落ちている状況である。
- 全国と同等 … 1年男子、6年男子、6年女子

玉井小では、6年生が南達陸上、あだたら健康マラソン、水泳大等様々な行事に参加するので、どんどん結果が上がってくるのだが、それ以外の学年になると低い傾向にある。

- マラソン大会に向けてみんなでマラソン練習に取り組んだり、また、毎週月曜日の業間の時間に「玉っ子外遊びタイム」として外遊びをしたりすることを推奨しているが、なかなか記録が全国に追いつかない。皆さんとお話ししていく中で、子どもたちの体力向上に役立つ情報や皆さんの考えをまとめることによって、今後の子どもたちの体力向上に向けて取り組んでいきたいと思っている。

③ 保健面から（養護教諭より）

（玉井小学校 久保寺 容子）

- 肥満についての資料（肥満傾向の児童の割合）を掲載した。玉井小、安達地区、福島県は13%～14%で全国と比べて少し高く、毎年の課題になっている。玉井小では昨年度より0.6%下がっているが、全国より3.5%高く、地区より0.3%高くなっている。本校は肥満傾向児がやや多い傾向にあると言える。肥満度の推移についてだが、平成29年度から並べてみた。コロナ禍を経て肥満の増加が見られたが、少しずつ減ってきている。今後の課題として残っている。
- 学年ごとの内訳を示した。本校として肥満傾向の子ども対象に個別指導をしたり、面談を行ったりしている。全体指導としては、栄養士に食に関する授業をしていただいたりしているところである。



④ 運動に関するアンケートについて

（玉井小学校教頭 佐藤 史浩）

- 運動の実態、考えをとれるために4年生以上にアンケートを行った。
 - 本校には運動が好きな子が多い。（8割近く） 習い事でスポーツに親しんでいる子も多い。
→ 休日について … 運動する（4割）＋時々運動する（4割）
家で家族といっしょにスポーツをしたり、観たり、話をしたりすることも多い。
 - 体力に自信がある子 … 6割弱、 スポーツが好きな子 … 8割以上
ギャップがある ～ 自信のなさ、苦手意識等がある。
 - 体育の授業が好き・楽しい … 7割以上
 - 大玉村にあったらいいと施設 → 広い公園、アスレチック施設等
- （進行）これらを参考に協議を進めていただければと思います。では、これから分科会に移ります。全体会を17時35分から始めたいと思いますのでよろしくお願いします。

6 グループ別協議 ※ 各グループごとに進行



7 グループ別協議内容の共有

① グループ別で熟議したことの発表

(進 行) それでは全体会に移ります。1 班からよろしくお願いします。

1 班

ア 学校からアプローチできること

- ・体験活動や他学年とのふれあい等を経験することができる。例えば、縦割り清掃班を生かして、その中で遊びを行った。(児童会で企画)
→ 今後も、他にも何か皆で楽しめることはないかを考える。(今までやっていない新しいイベント的なもの等)

イ 家庭からアプローチできること

- ・ごみを拾いながらスポーツ
→ 家のイベントと村のイベントをつなぎ合わせて、楽しみながら体力もつけられるようなことをしていったらどうか。

ウ 地域からアプローチできること

- ・大玉村に子どもたちが遊べるような施設や公園等があったらいいのではないかな。
→ 村の財産や資産を生かした事業やイベント等が企画されると、運動する機会が増えるのではないかな。

2 班

ア 学校からアプローチできること

- ・授業だけでは限界があるので、休み時間を活用していきたいという意見が出た。

イ 家庭からアプローチできること

- ・親子と一緒に活動するのが大切ではないかな。
→ 車での送り迎えが多いので、減らしていくことも必要

ウ 地域からアプローチできること

- ・子どもたちが遊べる施設が少ないので、増やしていくことも考えたい。

3 班

ア 学校からアプローチできること

- ・授業(体育)での運動量の確保はもちろんのこと、業間や昼休みに教師も一緒に遊んだり、遊具を使った遊びを取り入れる等して、児童自身が楽しみながら自発的に動ける環境をつくりたい。
- ・長縄跳び大会に出場するなどして、皆で体を動かす機会をつくりたい。

イ 家庭からアプローチできること

- ・家族みんなで体を動かす時間を設ける。生活時間の見直し。

ウ 地域からアプローチできること

- ・広い公園とか体を動かす場をぜひつくっていただきたい。地域のスポ少や学校支援ボランティアをお願いして、地域の力を生かしていきたい。



4 班

ア 学校からアプローチできること

- ・業間の時間に必ず運動するという機会は大切なのではないかな。運動が苦手な子ほど積み重ねていくことが大切である。
- ・体育の授業だけでなく、いろんな機会に運動の楽しさを教えていくことが子どもたちの自発的な活動につながっていく。

イ 家庭からアプローチできること

- ・食生活、毎日の起床等生活習慣を整えていくことが体力向上、肥満防止につながっていくのではないかな。
- ・家庭への啓蒙 … 運動の大切さを実感するようなものを学校や村から発信して、考えを浸透していくことが大切。
→ 親子で共通して共に運動することに取り組む。

ウ 地域からアプローチできること

- ・さらに環境を整備していく。イベントやスポーツクラブ、無料でプール使用とか、そういう機会を増やしたい。(今もやっただいてるが…)
- ・大山小と長縄跳び競争するとか、校内だけでなく隣接校と一緒に取り組んでいけたらいい。

5 班

ア 学校からアプローチできること

- ・授業の充実

子どもたちが「運動できる」→「楽しい」→「やってみよう」と思えるようにしていく。体育の授業の中で運動量を増やしていく。

- ・授業を支える活動を充実させていく。

現在はマラソン大会に向けて練習しているが、それもモチベーションアップにつながっている。こうして運動の習慣が身につけばいい。

玉井小は異学年でいろいろな外遊びをする機会がある。それが家に帰ってからも、日常的に習慣化されてほしい。

- ・情報発信と共有

専門家を呼んで体力向上や生活習慣に関する知識を発信する。学びの機会を持つ。

イ 家庭からアプローチできること

- ・休日の過ごし方について

チャレンジデーを活用する。子どもたち自身がもっと外遊びをしたり、YouTube や NHK 等のデジタルツールも豊富なので、そういうものを使いながら運動につなげていければいい。

6 班

ア 学校からアプローチできること

- ・校庭にドッジボール用のラインを引いておく。
- ・走るコースをつくっておく。
- ・長縄やバドミントン等ちょっとした取り組みができるといい。
- ・「頑張ったできた！」という喜びをもたせること。(マラソン、水泳等)

イ 家庭からアプローチできること

- ・外に出て行く機会を意図的につくる。運動のきっかけづくり (例：自然観察、〇〇体験等)

ウ 地域からアプローチできること

- ・(難しいことではあるが) 施設や道具を増やしていく。施設の無料開放の時間を増やす。

- 例：プール…子どもは安いが大人は500円かかるのでなかなか行きにくいという声に応える。車がないと行きにくいという側面がある。
- いろいろな体験ができるよう、モチベーションを高める取り組みをする。(スタンプラリーの活用)



7 班

ア 学校からアプローチできること

- ・運動する機会を確保する。
→ 今はマラソン大会に向け業間マラソンを行っているが、そういった形で運動する機会をつくることが大事。
→ 外遊びの推奨ということで、月曜日に外遊びの日を設定している。声かけをさらにしていく。
→ 休日に校庭を開放する。地域にも呼びかけていく。

イ 家庭からアプローチできること

- ・親と一緒に遊んだり、運動したりすることが大事。一緒に運動し、子どもがどんなことができて、どんなことが苦手なのかが分かる。そういったことを把握していくことが重要。
- ・子どもが朝登校した段階で、すでに疲れている様子が見られている。家庭の生活習慣（食事、睡眠等）づくりについても呼びかけていくことが大切である。

ウ 地域からアプローチできること

- ・村に広い公園がない。子どものアンケート結果にも「アスレチック施設がほしい」という要望がある。そういった施設を増やしながら、環境を整備していくことも大切。
- ・スポーツのイベントを開く。
- ・村の景色が綺麗なところを自転車で行けるようサイクリングコースがあつたらいい。(整備する)
- ・スポーツクラブ、スポーツ少年団の利用
村にもいろいろあるが、学校からPRしていくことも必要ではないか。

(進行) 先生方、CS委員の皆様ありがとうございました。本当に時間通りに進めていただき感謝申し上げます。

8 講評

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

皆様、改めましてお疲れさまでした。玉井小におかれましては、今日の授業参観、分科会、そしてこの学校運営協議会等のご準備をいただきありがとうございました。子どもたちのために先生方がしっかりと準備されていると毎回感動しておりますが、今回もいろんな準備をし、子どもたちがスムーズに授業に臨めるようにしていただいていることに感謝申し上げます。

今回は玉井小学校に特化した体力向上について話し合いをしていただきました。先生方、地域の方には、これから子どもたちをどのように成長させていけるのかについていろんな意見を出していただきました。先程他の班からもありましたが、今度の土曜日にマラソン大会があります。私たち親は、子どもに「頑張れ、頑張れ」と言ってしまいますが、頑張った後に褒めることも大切にならなければならないと思っています。沿道や家に帰ってからたくさん褒めていただいて、子どもたちが頑張ってよかったなと思えるようにしていく必要があると思います。

地域を含めてこれからもよろしくお願いします。本日はどうもありがとうございました。

9 御礼のことば

(玉井小校長・幼稚園長 五十嵐 洋之)

本日は遅くまで熱心な熟議ありがとうございました。

私は小学校教員ですが、専門が体育でありまして、これまで子どもたちの体力向上、それから肥満傾向の解消等に向けていろいろ取り組んできました。しかしながら、一時的に数値は上がっても、なかなかそれが安定しないという課題も抱えてきました。

今日熟議の様子を見ていて感じたのは、やはりそれは学校だけの取り組みだったということです。家庭・地域が体力に関する課題をしっかりと共有して、そして取り組みも共有しながら進めていくことができなかったんだなということを反省しているところです。そういった意味でも今回の熟議は貴重な場だったと思います。

学校としては、やはり体育の授業が核になります。1年生は102時間、2～4年生は105時間、5、6年生は90時間年間体育の授業があります。その1時間1時間をしっかり運動量を確保しながら、運動の持つ楽しさ（特性）を味わわせながら実践していくこと、また、スポーツ・運動への関わり方（運動を観る・する・知る・支える）の楽しさを子どもたち一人一人に体験させ、根付かせていくこと、それが生涯のスポーツライフにつながると思っています。それに加えて、本日いただいたご意見を参考に、家庭や地域と連携できることは何かを探しながら、これからの子どもたちの体力向上、運動習慣の確立、肥満傾向の解消等に努めていきたいと思っています。

本日は誠にありがとうございました。

10 閉会のことば

(おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都)

本日は長時間に渡りありがとうございました。外は蒸し暑いですので、水分をとりながら気をつけてお帰りいただきたいと思います。これで令和6年度大玉村立玉井小学校・玉井幼稚園学校運営協議会並びに第2回CS委員会を終わります。本日はありがとうございました。